成人看護学

【科目構成とねらい】

成人とは、心身ともに成長・成熟した人をいう。成人の区分は、身体の成熟度や社会的活動の視点によりその定義は異なるが、概ね 15 歳から 65 歳までを指し、13 歳から 18 歳までを小児からの移行期、65 歳から 75 歳までを老年への移行期とする。成人を限定した年齢集団と捉えるのではなく、小児から成人、成人から老年へと成長・発達をしながら連続性を持った存在として捉える。

成人期は、発達段階の視点から、青年期、壮年期、向老期に区分され、それぞれ異なる発達課題がある。いずれの時期においても成人期にある人は、社会における中心的役割を担い、自立・自律し、意思決定できる存在である。たとえ病気になっても、自分の治療法の選択や療養に責任をもち、セルフマネジメントできる存在であると捉える。

成人の健康は、ライフイベントや生活習慣、労働環境、人間関係など様々な要因に影響を受け、健康障害がもたらされる。そのため、成人の健康は、生活の中で捉えていく必要がある。

また、成人期の生活習慣は、その後の老年期の健康に影響を及ぼすため、健康寿命を延伸するためにも成人期の健康活動が重要となる。

近年、健康意識の高まりや医療の高度化、在院期間の短縮など成人の健康問題を取り巻く環境が大きく変化しつつある。たとえ健康が障害されても社会生活を中断せずに治療する、あるいは入院治療を行っても早期に退院し、外来で治療を続けるようになった。このように疾患は、生活から切り離されたものではなく、生活者としての視点から健康問題を捉えていくことが必要である。

また、多様性を認め合う社会の実現が求められ、「その人らしさ」の重要性が増してきた。病を抱えつつも生活していく上で、こうした視点は欠かせない。

このように健康問題と生活者という 2 つの視点から、健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を踏まえ、成人期における看護の特徴に基づく科目を設定し、成人看護学の講義について計 6 単位を以下の通り設定した。

「成人看護学概論」

成人看護学概論では、成人期にある人を理解し、成人看護の特徴を学ぶ。成人看護学に関連する、保健・医療・福祉における動向と課題、成人期にある人を取り巻く環境から生じる健康障害や、健康に対する多様な価値観を認め、成人期にある人がたとえ病になっても、その人がその人らしく生きていくことを支えるための、看護の基本的役割について学習する。

また、成人期にある人の看護の特徴を「生命の危機状況にある人の生きているを支える看護」「手術を受ける人の生きていくを支える看護」「病とともに生活する人を支える看護」「生活機能障害のある人の暮らすを支える看護」「その人らしく生きるを支える看護」とし、看護の基盤となる看護理論を活用した成人看護のアプローチについて学習する。

「生命の危機状況にある人の生きているを支える看護」

人の身体には、侵襲に対してホメオスタシス（恒常性）を保とうとする機能が備わり、バランスが保たれている。しかし、何らかの侵襲によってホメオスタシスの保持が困難となった場合、生命の危機状態に陥り、呼吸、循環など生命を維持するために、迅速かつ適切な医療介入が必要となる。「生命の危機状況にある人の生きているを支える看護」では、生命危機に対応するための基礎知識や、早期回復に向けた看護、合併症予防のための看護の理解が必要になる。

また、事例を用いて、看護判断、臨床推論、状態に応じた看護技術などについて学習する。

「手術を受ける人の生きていくを支える看護」

成人期にある人が、何らかの原因により手術が決定し、手術療法を受け、回復し、退院に至るまでの周術期に行われる看護を学ぶ。手術療法を受けるとは、生活者が手術を提示された時から、手術を終えて、何らかの機能障害又は低下の状態で、再びその人の生活に戻るという経過を辿ることである。手術療法は、健康回復への手立てではあるが、手術療法を受ける人は、身体・社会・精神的に大きな影響をうける。

また、その家族にとっても危機的状況となる。手術による影響を最小限に抑えて、回復を促進するための支援が必要である。「手術を受ける人の生きていくを支える看護」では、周術期にある人とその家族の特徴を理解した上で、手術侵襲と生体反応及び回復過程、アセスメント力、合併症予防と看護に関する知識と技術を学習する。

「病とともに暮らすを支える看護」

病を抱えつつ生活している成人期にある人は、疾病の症状や徴候と折り合いをつけながら日々生活している。看護師の役割は、患者がセルフマネジメントできるよう効果的な患者教育を担い、長期にわたる療養生活を支援することにある。そのため、単に、一般的な知識や技術を伝える指導ではなく、社会的役割を果たしながら病とともに暮らすことを支援する視点が不可欠である。成人期にある人が健康上の課題に対して解決できるよう、学習援助型の考え方を支持していくことが必要である。「病とともに暮らすを支える看護」では、成人期にある人自身が自分の病状をアセスメントして、コントロールするための看護を学習する。

「生活機能障害のある人の暮らすを支える看護」

成人期にある人が、疾病や外傷などにより身体機能の一部が失われた場合、それまでの生活を見直し、生活の変更を余儀なくされることがある。その場合、身体機能の障害及び治療のため通院や入院によって、社会や家庭の中で、担ってきた中心的な役割の遂行が困難となる。「生活機能障害のある人の暮らすを支える看護」では、少しでも早く、再びその人らしく生活が送れるように支える看護について学習する。

「その人らしく生きるを支える看護」

成人期にある人が、生命を脅かす病により、身体的苦痛、精神心理的苦痛、社会的苦痛、生きることの意味を自問するなどのスピリチュアルな苦痛による全人的苦痛にさらされる。そのような状況下において、社会的役割の遂行が困難になると同時に、その人らしい生活や自分らしさをも制限されていく。「その人らしく生きるを支える看護」では、特定の疾患や終末期に関わらず、患者とその家族の抱える苦痛の予防と緩和をするとともに疾病の進行に伴う不安、孤独、恐れを癒し、その人らしい生活を維持し、クオリティオブライフを改善していくことで、死が訪れるその時までその人らしく生きることを支える看護について学習する。

【目的】

成人期にある人を生活者としての視点から理解し、健康問題を抱えた成人の主体性を尊重した意思決定ができるように関わり、健康でその人らしく生活することを医療の側面から支えるために必要な援助を提供することの基礎的能力を養う。

【目標】

1．成人を生活者として捉え、「生きている」、「生きていく」、「暮らす」、「その人らしく生きる」という側面から理解する。
2．成人の健康課題とその予防について理解する。
3．生命が脅かされている状態にある成人の生命活動を支える看護について理解する。
4．生命活動を維持するための治療として手術を受ける成人の、生命活動を支え、身体機能の低下からの回復を促す看護について理解する。
5．長期にわたりゆっくりと進行する病を抱える成人が、病とともに暮らすを支える看護について理解する。
6．疾患や外傷により身体機能の一部が失われた成人が、再びその人らしく社会とつながりをもって暮らしていけるよう支える看護について理解する。
7．病に生を脅かされつつある成人へ、その人らしく生きることを支える看護について理解する。

【構成および計画】

＜講義＞

科目	単位	履修時期		
		1 年次	2 年次	3 年次
成人看護学概論	1	○		
生命の危機状況にある人の生きているを支える看護	1		○	
手術を受ける人の生きていくを支える看護	1		○	
病とともに暮らすを支える看護	1		○	
生活機能障害のある人の暮らすを支える看護	1		○	
その人らしく生きるを支える看護	1		○	

授業計画

科目名	成人看護学概論	単位数 (時間)	1単位 (30)	履修 時期	1年次
科目 目標	1．成人期にある人を生活者の視点から捉え、成人について理解する。 2．成人の健康と生活を支える保健・医療・福祉の現状及び課題を理解する。 3．成人を支える看護について看護理論を活用した看護アプローチを理解する。				

回	単　元	内　　容	形式	担当教員 ＊実務経験のある教員
第1回	成人期にある人の理解	成人看護学とは 成人期にある人の理解 成人にとっての「その人らしさ」とは	講義	専任教員＊
第2回		成人の発達段階・発達課題の特徴	講義	専任教員＊
第3回		成人を取り巻く現代社会の特徴	講義	専任教員＊
第4回	成人の健康に関する指標	成人の生活と健康 健康指標からみた成人の理解	講義	専任教員＊
第5回	成人の健康の保持増進のための支援	成人の健康の目標と健康課題 健康の保持増進のための取り組み 生活習慣病予防	講義	専任教員＊
第6回		生活と健康を守り育むシステム 保健・医療・福祉にかかわる施策	講義	専任教員＊
第7回	成人教育	成人教育の概念と特徴 エンパワーエディケーション アンドラゴジー理論	講義	専任教員＊
第8回	看護理論を活用した成人看護のアプローチ	成人が生きているを支える看護 成人が生きていくを支える看護 危機理論	講義	専任教員＊
第9回		成人が病とともに暮らすを支える看護 病みの軌跡　健康信念モデル 行動変容ステージモデル	講義	専任教員＊
第10回		成人が障害とともに暮らすを支える看護 セルフケア理論　自己効力	講義	専任教員＊
第11回		成人がその人らしく生きるを支える看護 死への軌跡　全人的苦痛　意思決定支援	講義	専任教員＊
第12回	成人の健康を支える支援	成人の健康を守るプロジェクト ① 身近な成人の健康について考える	演習	専任教員＊
第13回		成人の健康を守るプロジェクト ② 生活のリサーチと健康課題の検討	演習	専任教員＊
第14回		成人の健康を守るプロジェクト ③ 健康課題に対する改善策の検討	演習	専任教員＊
第15回	評価			
評価方法		筆記		

授業計画

科目名	生命の危機状況にある人の生きているを支える看護	単位数 (時間)	1単位 (30)	履修 時期	2年次
科目 目標	1．生命が脅かされている人の「生きている」を支える看護を理解する。 2．「生きている」を支えるためのアセスメントに生かす臨床推論技術を理解する。				

回	単　元	内　　容	形式	担当教員 ＊実務経験のある教員
第1回	生命の危機状況にある人の基本的看護	生きているを支える自然治癒力 生体侵襲における身体の反応	講義	専任教員＊
第2回		呼吸障害と人工呼吸器療法の看護 ・呼吸不全　・人工呼吸器看護	講義	外部講師＊ (集中ケア認定)
第3回		循環障害と看護 ・心拍出量の調節　・ショック	講義	外部講師＊ (集中ケア認定)
第4回		生きているを尊重するための看護 ・早期回復に向けての看護 ・全人的苦痛と緩和	講義	専任教員＊
第5回		生きているを脅かされている家族の看護 ・家族のアセスメントと看護	講義	専任教員＊
第6回		生きているを支える自己実現のための看護 ・倫理的諸問題　・考え方とその対応	講義	専任教員＊
第7回	生きているを脅かし治療を必要とする人の看護	救命救急を必要とする人の看護 ・救急看護が必要な人の理解と体制 ・検査・処置時の看護とアセスメント	講義	外部講師＊ (集中ケア認定)
第8回		集中治療を必要とする人と家族の看護 ① ・心筋梗塞　・心不全	講義	外部講師＊ (集中ケア認定)
第9回		集中治療を必要とする人と家族の看護 ② ・外傷の状態にある人の看護 ・中毒の状態にある人の看護 ・熱傷の状態にある人の看護	講義	外部講師＊ (集中ケア認定)
第10回	臨床推論のプロセス	アセスメントに生かす推論技術 ・アセスメントの段階・方法	講義	専任教員＊
第11回		シミュレーション学習 演習時には、各状態に関連した疾患及び観察項目などの事前学習が必要となる。シミュレーション学習は頭痛･呼吸困難･急性腹症などでシナリオ設定する。	演習	専任教員＊
第12回			演習	専任教員＊
第13回			演習	専任教員＊
第14回			演習	専任教員＊
第15回	評価			
評価方法		筆記		

授業計画

科目名	手術を受ける人の生きていくを支える看護	単位数 (時間)	1単位 (30)	履修 時期	2年次
科目 目標	1．手術療法を受ける人と家族の特徴について理解する。 2．手術療法を受ける人とその家族の「生きていく」を支えるための看護を理解する。 3．周術期にある人の「生きていく」を支えるための看護の実際を理解する。				

回	単　元	内　　容	形式	担当教員 ＊実務経験のある教員
第1回	周術期看護	周術期にある人の「生きていく」とは	講義	専任教員＊
第2回	手術前期の看護	意思決定支援 術前オリエンテーション	講義	専任教員＊
第3回		全身状態のアセスメント ・手術・麻酔が身体に及ぼす影響	講義	専任教員＊
第4回		手術前期の看護	講義	専任教員＊
第5回	手術期の看護	手術室の環境、麻酔中の看護 手術室看護師の役割、手術室における安全管理	講義	外部講師＊ (手術認定)
第6回	手術後の看護	術後の病床環境 ・モニタリングとアセスメント ・術後合併症予防と回復への看護	講義	専任教員＊
第7回	創傷治癒過程とドレーン管理	創傷の治癒、術後感染症への看護 ・ドレーン管理	講義	専任教員＊
第8回	胸腔鏡下手術を受ける人の看護	胸腔鏡下手術における看護（肺がん） ・胸腔ドレーンの管理	講義	専任教員＊
第9回	腹腔鏡下手術を受ける人の看護	腹腔鏡下手術における看護 ・クリニカルパスを用いた思考過程	講義	専任教員＊
第10回	開腹手術を受ける人の看護	Case learning 1　開腹手術を受ける人の看護 ① 事例紹介（胃がん又は大腸がん） 周術期を支える看護理論と計画 情報収集とアセスメント	演習	専任教員＊
第11回		Case learning 1　開腹手術を受ける人の看護 ② 看護問題と援助	演習	専任教員＊
第12回		Case learning 1　開腹手術を受ける人の看護 ③ 術後患者のアセスメント 「術後患者の観察とアセスメント」	校内 実習	専任教員＊
第13回		Case learning 1　開腹手術を受ける人の看護 ④ 回復を促進するための看護 「早期離床の援助」	校内 実習	専任教員＊
第14回		Case learning 1　開腹手術を受ける人の看護 ⑤ 障害の適応に向けた援助 退院支援に向けた看護	講義 演習	専任教員＊
第15回	評価			
評価方法		筆記		

授業計画

科目名	病とともに暮らすを支える看護	単位数 (時間)	1単位 (30)	履修 時期	2年次
科目 目標	1．病とともに暮らす人の特徴を理解する。 2．その人らしく暮らすための行動変容や治療を生活に組み込むための支援を理解する。				

回	単　元	内　　容	形式	担当教員 ＊実務経験のある教員
第1回	病とともに暮らす人の理解	病とともに暮らす人の特徴 治療・療養行動に関わる主な理論・概念	講義	専任教員＊
第2回		セルフマネジメント能力を高めるための支援 ・成人患者への教育的アプローチ ・チームアプローチ	講義	専任教員＊
第3回	糖代謝障害とともに暮らすを支える看護	糖尿病とともに暮らす人の理解 身体的・心理的・社会的特徴とアセスメント	講義	専任教員＊
第4回		Case learning 1　病状コントロールに必要なセルフマネジメント支援 ① ・症状マネジメント・食事療法・運動療法	講義	専任教員＊
第5回		Case learning 1　病状コントロールに必要なセルフマネジメント支援 ② ・薬物療法・自己血糖測定・フットケア	講義 演習	専任教員＊
第6回		Case learning 1　病状コントロールに必要なセルフマネジメント支援 ③　指導計画の立案	演習	専任教員＊
第7回		Case learning 1　病状コントロールに必要なセルフマネジメント支援 ④　媒体作成	演習	専任教員＊
第8回		Case learning 1　病状コントロールに必要なセルフマネジメント支援 ⑤　ロールプレイ	演習	専任教員＊
第9回		Case learning 1　病状コントロールに必要なセルフマネジメント支援 ⑥　評価	演習	専任教員＊
第10回	肝機能障害とともに暮らすを支える看護	肝機能障害とともに暮らす人の理解 ・身体的・心理的・社会的特徴 代償期のセルフマネジメント支援 ・検査・治療を受ける人の支援	講義	専任教員＊
第11回		非代償期の支援 ・症状緩和の援助（肝性脳症・腹水・黄疸） ・薬物療法　・食事療法	講義	専任教員＊
第12回	腎機能障害とともに暮らすを支える看護	腎不全とともに暮らす人の理解 身体的・心理的・社会的特徴	講義	外部講師＊ （認定他）
第13回		病状コントロールに必要な支援 症状マネジメント 苦痛の緩和　社会的支援の獲得への看護	講義	外部講師＊ （認定他）
第14回		血液透析・腹膜透析の特徴 透析を受ける人への支援	講義	外部講師＊ （認定他）
第15回	評価			
評価方法		筆記・レポート		

授業計画

科目名	生活機能障害のある人の暮らすを支える看護	単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1．生活機能障害によって変化する成人のセルフケアを理解する。 2．生活機能障害とともに暮らすその人の生活の再構築のための支援を理解する。				

回	単　元	内　　容	形式	担当教員 ＊実務経験のある教員
第 1 回	生活機能障害とともに暮らす成人のセルフケア	生活機能障害とともに暮らす成人のセルフケア 生活機能障害とリハビリテーション チームアプローチと社会資源の活用	講義	専任教員＊
第 2 回	循環機能障害のある人の生活の再構築のための看護	循環機能障害を有する人への看護 心肺機能の変化と活動への影響	講義	専任教員＊
第 3 回		循環機能障害の検査・治療の特徴と看護 心臓リハビリテーション Case learning 1 心筋梗塞がある人の回復期における支援	講義	専任教員＊
第 4 回		Case learning 1 心筋梗塞がある人の生活の再獲得のための援助	演習	専任教員＊
第 5 回	呼吸機能障害のある人の生活の再構築のための看護	呼吸機能障害を有する人への看護 呼吸の障害の検査・治療の特徴	講義	専任教員＊
第 6 回		呼吸リハビリテーション	講義	専任教員＊
第 7 回	脳・神経障害のある人の生活の再構築のための看護	脳・神経機能障害を有する人への看護 合併症のアセスメントと予防	講義	外部講師＊ （脳卒中リハビリテーション認定）
第 8 回		Case learning 2 くも膜下出血にある人の発症から生活の再獲得までの援助 ①（急性期から回復期へ）	演習	
第 9 回		Case learning 2 くも膜下出血にある人の発症から生活の再獲得までの援助 ②（維持期・生活期へ）	演習	
第 10 回	排尿・排泄機能障害のある人の生活の再構築のための看護	排尿・排泄機能の障害のある人の看護 排尿・排泄機能の障害のアセスメント 排尿・排泄の調節機能の回復への援助	講義	外部講師＊ （皮膚・排泄ケア認定）
第 11 回		ストーマ造設時の看護 ストーマケアの自立に向けた援助	講義	
第 12 回		ストーマ管理とケアの実際（消化管ストーマ） ・スキンケア・装具交換と管理	演習	
第 13 回	脊髄に障害のある人の生活の再構築のための看護	脊髄損傷による機能障害の発生メカニズム 機能評価とアセスメント	講義	専任教員＊
第 14 回		脊髄損傷の回復過程 治療とリハビリテーション	講義	専任教員＊
第 15 回	評価			
評価方法		筆記		

授業計画

科目名	その人らしく生きるを支える看護	単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1．「その人らしさ」を捉え、その人らしく生きることを支援するための看護を理解する。 2．生と死について考えることができ、その個人と家族とともに「人が生きる意味」について理解する。				

回	単　元	内　　容	形式	担当教員 ＊実務経験のある教員
第 1 回	人間の生と死	人の生命、死と医療 死の準備教育	講義	専任教員＊
第 2 回	緩和ケアの定義と現状	緩和ケアとは 終末期医療に関する概念 エンドオブライフケアとチームアプローチ 思春期・若年成人（AYA 世代）における特徴	講義	専任教員＊
第 3 回	非がん患者と緩和ケア	緩和ケアにおける動向 非がん性呼吸器疾患の症状と緩和 症状緩和の方法	講義	専任教員＊
第 4 回	緩和ケアにおける意思決定支援	死をめぐる倫理的課題 意思決定支援	講義 演習	専任教員＊
第 5 回	緩和ケアの実際	全人的苦痛の概要 全人的苦痛（トータルペイン）	講義	外部講師＊ (緩和ケア認定)
第 6 回		霊的苦痛とは（スピリチュアルペイン） 霊的苦痛の緩和	講義	外部講師＊ (緩和ケア認定)
第 7 回		化学療法を受ける人の看護	講義	外部講師＊ (緩和ケア認定)
第 8 回		放射線療法を受ける人の看護	講義	外部講師＊ (がん放射線療法看護認定)
第 9 回		Case learning 1　乳がんがある人の看護 ① 身体的苦痛の緩和における援助	講義	外部講師＊ (乳がん看護認定)
第 10 回		Case learning 1　乳がんがある人の看護 ② 精神的・社会的苦痛の緩和における援助	講義	外部講師＊ (乳がん看護認定)
第 11 回		Case learning 1　乳がんがある人の看護 ③ 援助の実践とコミュニケーション	校内 実習	専任教員＊
第 12 回	危篤・臨終・死亡時の看護	危篤時の看護 臨終時の看護 死亡時の看護	講義	専任教員＊
第 13 回	家族ケア	家族のニード 家族成員、家族集団に看護師ができること グリーフワーク・ケア	講義	専任教員＊
第 14 回	死後の看護	死亡の手続き 帰宅時の援助　日本の臨終時、死亡時の慣わし	講義	専任教員＊
第 15 回	評価			
評価方法		筆記		